

寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

(匿名希望を除く。50音順、2023年8月末現在)

この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

土井 彬人 様
一般社団法人生産技術振興協会

編集委員のページ



林 正幸

大阪キリスト教短期大学理事兼特任教授

大学卒業後、大阪市立大学(現:大阪公立大学)で数年間助手として奉職、その後に職を辞し同大学大学院で公衆衛生を専攻、研究に専念。その後ほぼ40年にわたり、健診やレセプト情報などの疫学解析結果から導いた「疾病の予防」を研究。

昨日までの知識、今日は誤り。ニュースは新しい知識の宝庫

大学生時代「現代医学でも対応できない疾病だらけ」であることに触発され、大学院は公衆衛生を専攻して「転ばぬ先の杖」を研究。当時は大教室並みの広さの大型汎用機センター(現在では上位のスマホ並みの性能)に通い、膨大な健診情報のデジタル化と、疫学的解析プログラムの自作で研究を行いました。その後1台が数十万円もするマルチ・フロッピー・ドライブと、25cm角と大きい割に記憶容量は1MBの磁気ディスクにランダムアクセスDBを、実用化され始めたオフィスコンピュータで利用していました。これらを健診会場に持ち込み、性・生年月日・氏名(かな)から以前の健診データを検索・印刷し、幾つかの健診現場で各個人の状態変化を見ながら健診するための初歩的な「電子カルテシステム」を構築し、結果報告書の作成の他、収集情報から疾病の生態を読み解く疫学研究の基礎データを作製しました。2ヶ月に1回程度は大阪から夜行列車で新潟に通い、様々な関連部署(病院や消防署)から脳卒中発症情報を発掘し、それらを総合的に集約・解析し、結果を投稿、「米国で常識とされていた脳卒中の発症リスクが日本では大きく異なるというProspective studyによる新しいエビデンス」として、編集者と1年以上のやりとりの上、Strokeに掲載されました。このことから「健康と栄養」についての常識に変化を与えた教室の研究を40年間継続。今や、自身が「転ばぬ先の杖」が必要な年齢になりました。

WHOニュースは、膨大な努力に裏打ちされた正しく新しい世界の公衆衛生知識です。未来に向かう皆様方が、日々編集者として英文原稿を翻訳監修しているニュースから、最新の健康情報を利用していただき、公衆衛生発展に寄与されるよう期待して止みません。